

農村ツーリズム懇談会(農林漁業体験型教育旅行受入) 議事概要

日 時：令和7年(2025年)1月29日(水) 13:30~16:00

会 場：かでの2・7 730会議室(札幌市中央区北3条西7丁目1番地)

開催方法：会場参加型(オンラインZOOM併用)

出席者：別紙「懇談会出席者名簿」のとおり

<議事概要>

1 開会挨拶

(農村設計課)

- ・本日は全道の教育旅行のコーディネーター団体の皆様に、ご参集いただきまして大変ありがとうございます。
- ・今回初めての試みといたしまして、教育旅行受入れの先進地事例紹介ということで、岩手県遠野市、認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークマネージャーの田村様に、オンラインにてご紹介いただくことに承諾いただきまして、大変感謝申し上げます。
- ・道では都市と農村の交流を通しまして、関係人口の増加を図るための取組を、農村ツーリズムという名称を使って推進しております。
- ・しかしながら、新型コロナウイルス感染症の悪影響により、受入農業者の意欲の低下などにより、受入者の減少が全道的な課題となっております。
- ・このことから受入れキャパシティの増加を図るために、広域的な連携による、教育旅行の受け入れや、SDGs、探求型学習への対応を求めている中で、今後の更なる教育旅行の受入れ推進に向けたご意見を情報交換する場として本懇談会を企画しています。
- ・忌憚のない意見交換などを通じて今後、相互の取組に活かしていただければと考えております。本日はよろしく願いいたします。

2 岩手県遠野市の教育旅行受入事例紹介

(認定NPO法人 遠野山・里・暮らしネットワーク)

- ・岩手県遠野市の教育旅行受入れについて、別紙「資料1」に基づき取組事例を紹介。

3 情報提供1

(農村設計課)

- ・教育旅行の受入アンケート結果について、別紙「資料2」に基づき報告。
- ・道央地域教育旅行受入推進セミナー(道主催)について、別紙「資料3」に基づき実施概要を報告。

4 情報提供2

(アグリテック)

- ・道北地域における広域連携の教育旅行受入について、別紙「資料4」に基づき報告。

(美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・美幌町におけるハイブリッド型の教育旅行受入について、別紙「資料5」に基づき報告。

5 近況報告

(千歳観光連盟)

- ・受入地域として千歳市、恵庭市、長沼町、厚真町と連携をし、教育旅行の農業体験の受入れをしています。
- ・今年度の実績はファームビジットが神奈川と東京の2校、約260名の受入れをしました。
- ・来年度の予定は今のところ1校でファームビジットで約250名となっており、6月に大阪の高校で、受入先の千歳市、恵庭市、厚真町、長沼町と連携をし、これから受入農家と調整を進めていきます。
- ・弊社で教育旅行の受入れを2008年ぐらいからスタートし、徐々にファームビジット、ファームステイともに受入農家が少しずつ拡大はしたのですが、コロナを境に、受入農家が大きく減少しました。
- ・コロナ以外の様々な要因として、農家の高齢化や、農家が本業で忙しいので、ファームステイに関しては、現在、休止しています。
- ・北海道運輸局が事務局となった北海道訪日教育旅行促進協議会の構成員となり、海外からの教育旅行誘致をしています。
- ・本協議会は、基本的に日本の学校と海外の学校との学校交流のマッチングする組織です。
- ・12月も台湾にセールスに行ったのですが、台湾からも北海道でファームステイしたいというリクエストが非常に多くなっている現状にあります。

(マルベリー)

- ・今年度の実績はファームステイが14校、ファームビジットが16校、来年度の予定は今のところ、ファームステイが13校、ファームビジットは15校の予定となっています
- ・今、ニセコ地区は宿泊施設が約9割近く外資になって、教育旅行の受入れを積極的に行っている宿泊施設が限られております。
- ・昨今の物価高の影響により、教育旅行の予算の見直しやプランの見直し等が見られます。又、コロナが5類に変わり、予約が徐々に活発になってきております。
- ・弊社が教育旅行民泊を始めたのは2013年からで、コロナ前は200軒ほどの生産者の皆さまと連携しておりましたが、現在は110軒ほどと減少致しました。
- ・コロナ前は、シーズン40校から50校の受入れを行っておりましたが、3年ほど前から生産者の皆さまが土日は時間が必要とのことで、土日を外した月火水木金のみの受入れと変更させていただいております。

(美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・今年度の実績は、ファームビジットが2校、90数名の受入をし、ファームステイはゼロであります。
- ・一方で、地元の自衛隊駐屯地の親睦会で農業体験4作物4回受け入れをしました。また、旅行会社から問い合わせがあり、単発の芋掘り体験などの受入れを実施しています。
- ・本年度は、某JAの事務局、青年部事務局に受入拡大のための説明をしたほか、直近では管内の某役場に観光協会含めて、2月に受入の話聞いてくださるといところまでいっているので、現在、本町と津別町の2町の連携でキャパシティの不足で受けられない現状にあります、実際に行動に移して、仲間づくりをしているところです。

(南知床標津町観光協会)

- ・今年度の実績はファームビジットが30校、1,928名で、内訳は道外が28校で1,890名、道内が2校で、38名を受入れました。
- ・来年度の予定は、ファームビジットで12校、1,100名です。
- ・ファームステイは、農家と協議をし新型コロナウイルス感染症から、現在、休止をしています。
- ・標津町にJAが事務局となっているグリーンツーリズムフレンズという組織があり、今後、ファームステイの受入体制を構築していきたいと考えています。
- ・令和8年度のファームステイに向けて、教育民泊のシンポジウムや研修会などを開催して、ファームステイの理解促進と受入可能な方を募集し登録者を増やしていきたい。

(食の絆を育む会)

- ・今年度の実績はファームビジットが1校、ファームステイが4校、410名の受入れをしました。
- ・来年度の予定は、ファームビジットが1校、ファームステイが6校です。
- ・コロナ前は、多いときは1回に約360人程度受入れをしていましたがコロナ明け以降、その規模はもう無理であるため、ニーズや教育旅行に求めていることを受入農家とキャッチボールしながら、新たな枠組みをつくっていききたいと考えています。
- ・今年度は私学3校で学校の先生とともに、新たにスタディツアーというのを、教育旅行とは別につくって試験的に実施し、来年度は30人から80人規模で実施し広げていきたいと思っています。

(アグリテック)

- ・本年度実績は、ファームステイが7校、ファームビジットは1校、人数は約600名の受入れをしました。
- ・来年度の予定は、ファームステイとファームビジット併せて8校、約900名です。
- ・一方、先ほど情報提供の中で話した探求学習やSDGsに関連した受入れが5校ありますので、それを含めると全体で約13校受入れを予定しております。
- ・プログラムとしては、まち歩きツアーや、東川町を舞台に地方創生に絡んだツアーや町と連携した移住ツアーを実施しています。
- ・また、道北エリアでの静岡県のクリストファー高校については、まだ正式にオファーはないの

ですが学校の先生から、令和7年度も12月にお願いしたいという話は昨年の段階で伺っています。

- ・分散型の目的が違う教育旅行というのを模索している学校があり、昨年度、これも違う静岡の学校ですが、夏休みに先発で人を集めて、30人ぐらいの学生が、研修旅行、修学旅行と全く違う目的の受入れもしました。

(津別町グリーン・ツーリズム協議会)

- ・コロナ前は1、2校受入れをしていましたが、コロナ以降はゼロになってしまい、本年度の受入れもゼロの状況です。
- ・受入農家の登録戸数は約11戸あるのですが、実質稼働しているのはおおよそ半分ぐらいです。
- ・そのような中、受入れの意識を消さないために、地元の児童や姉妹都市から来る子供たち向けの農業体験を年間40～50名ぐらいの受入をボランティアで実施しています。ボランティアなので、収入と結びついていないことが課題となっております。
- ・実際に受入農家数が少ないので、若い世代に働きかけをしつつ、我が町の農産物のPRや農業の理解促進を進めるために、グリーンツーリズムの受入の取組が必要であるという話をしており、来年度も引き続き、意識醸成を図っていきたいと考えています。

5 意見交換

(農村設計課)

- ・皆さんに事前にお聞きしたアンケートの中で、情報交換会において、お聞きになりたい情報がありますかという質問、でマルベリーから質問がありました。
- ・質問内容についてマルベリーからご説明をお願いします。

(マルベリー)

- ・広域連携で受入れをしている際に、オペレーションはどうしていますか。
- ・また、ファームステイでは24時間、何が起きるかわからないので緊急の場合、はどのような形で対応しているか、お伺いしたい。

(アグリテック)

- ・例えば、浜頓別町では、今回5軒の農家で受入れをしたのですが、町長を筆頭に、農協の課長を含めて町全体で歓迎するという体制で受入対面式を実施しています。
- ・どちらかというと生徒向けというよりは地元の仲間づくりのために、このように町ぐるみで迎えているところもあれば、中頓別町では今回1軒の農家で受入れをしたのですが、町長が来ていただいたりして、どちらかというと生徒への思い出づくりにつながるために少数で迎えています。
- ・オペレーションは、各地域で温度差が出てもいいので、生徒たちがこの町に来てよかったと思えるように出迎えてもらい、挨拶の内容は、受入農家の紹介程度で、10～15分程度で受入対面式を終わらせています。
- ・緊急体制ですが、浜頓別町では受入体制の事務局を農協で実施していますので、今回の広域で

- の受入は、学校の本部が稚内市のホテルだったので、その近くに私達事務局も宿泊しました。
- ・受入れをする段階で、各団体には、このような緊急連絡体制でやることを事前に依頼し構築しており、例えば、お腹が痛くて病院に行かなければいけないとなると、近くの病院までは、地元の事務局の方に送迎していただいている。
 - ・どうしても対応ができないという場合には、私達事務局がそこに向かって合流して、対応するという場合もあり、地域の事務局の方に、できるだけ同じような体制でやっていただくようお願いをしています。
 - ・今回の5振興局管内の広域受入れについては、稚内市と名寄市と東川町の3箇所私達スタッフの本部を柔軟に動けるよう設置しました。
 - ・北空知のエリアも入っているのですが、そこは団体としてしっかりしているので、事務局の方をお願い、併せて4つの緊急体制を作って連携し、何かあれば情報共有しながら実施しました。

(農村設計課)

- ・マルベリーも広域で受入れをし、オペレーションはどうしていますか。

(マルベリー)

- ・弊社も余市町から函館市までの生産者と連携しています。
- ・今年度は、函館は6校、来年も受入れの予定がありますが、ファームビジットから、次第にファームステイへと受入数が多くなってきています。
- ・弊社で雇用しているオペレーションスタッフは約20名います。
- ・函館方面では、鹿部町、函館市、八雲町の各エリアごとに担当者がいて、オペレーションをほとんどお任せをするような形で受入れを行っております。

(農村設計課)

- ・緊急体制はどうしていますか。

(マルベリー)

- ・緊急体制は、ニセコエリアの宿泊施設がニセコエリアの学校本部となり、道南エリアにおいては函館または八雲の宿泊施設が学校本部となります。何かあった場合には、弊社に連絡がきて、弊社から学校本部に連絡、また、道南においては、八雲町など各エリアの担当者が、状況に応じて現場に向かうなどの対応を取っております。

(農村設計課)

- ・この件に関して他の方は、ご質問なりご意見なりありますか。

(美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・広域連携の話で、もう少し詳しく掘り下げて伺いたいのですが、例えば、それぞれの市町村で受入れしたい農家がいるのでその管内の市町村や観光協会に事務局を依頼して連携して実施するよう始まったのか、または、各市町村のエリアで協力できる受入農家を探して、その個々の

農家と直に連携して実施するよう始まったのか、どのような形から、広域で実施するようになったか、お伺いしたいです。

(マルベリー)

- ・弊社のグリーンツーリズムの事業は20年前に、ニセコ町、蘭越町、真狩村の小さいエリアで体験が始まり、その後、ホテルからの教育旅行についての情報提供があり、非常に興味があったため教育旅行の取組を本格的に始めました。
- ・そこから生産者の皆さまに教育旅行の受入れについて周知し、徐々に受入先を拡大して参りました。
- ・道南地区においては農政部様からのアプローチで、グリーンツーリズムのノウハウがないということで、各エリアで発信する機会をいただき、各町村で講演するなどして、生産者だけでなく、各エリアの関係機関の方との連携を深めつつ、各行政機関の皆さまのご協力を賜り、広域連携の仕組みが整ってまいりました。

(農村設計課)

- ・アグリテックはどのように広域連携の体制を構築しましたか。

(アグリテック)

- ・弊社は受入農家の仲間の繋がりや、知人を紹介してもうらなどして、受入農家を増やしていきました。

(農村設計課)

- ・アグリテックでは具体的に、どのように話しをしていきましたか

(アグリテック)

- ・例えば、上川中部管内では、受入れをしたいという気運が高まっていたので、こういう農家が受入れを実施したいと言っているので、農協と役場の協力をいただけるかを協議したところ、了承をもらい、関係機関が一体となって進めることができました。
- ・和寒町や剣淵町などは、教育旅行の需要があるのであれば、町や農協としても受入を実施したいということで、関係機関が構成員となった各受入協議会が、立ち上がりました。
- ・交流人口を拡大することで、それぞれの地域の振興、活性化につながることは大切なことだという気運が各地域にあったため、弊社では、関係者の背中を押した状況で始まりました。

(食の絆を育む会)

- ・十勝はちょっと特殊だったと思うことは、当時は背景としてTPPという問題があり、ツーリズムありきというよりは、農家が生産している食料や、農産物の価値が都会の人に伝わっていないということがありました。
- ・そもそも農業、農村、農家のことをイメージできない都会の人たちに家族みたいな繋がりをつ

くるため、教育旅行のファームステイを活用して、農業のことをしっかり伝えたいという考えから、始まりました。

- ・そこで賛同してくれる人が地域のリーダーや自治体の方だったりして輪が広がっていき、さきほど話したT P Pのような情勢が、後押しになり、上手く転がっていきました。
- ・受入れする際のお金はどうしても良いという考えの農家が結構いる中、たくさんの人数を受け入れることができないという前提で、十勝で広域の受入がスタートしました。
- ・コロナ明け以降は、コロナ前の受入規模は無理であるため、今後、教育旅行とは異なった独自の価値を伝えるツアーをつくっていくのが良いかと思い、改めて、皆さんと意見交換をしながら気づかせていただきました。

(農村設計課)

- ・津別町グリーン・ツーリズム協議会は、どうですか

(津別町グリーン・ツーリズム協議会)

- ・弊社で春にアンケートを調査をしたところ、受入れに関して、年に2・3回、月に1・2回、毎回受けたいという回答に対して、それぞれがおおよそ3割3割3割という回答であり、農業者も受入れについては 多様の回答であると認識しました。
- ・そのため、その辺の意識をくみ取りながら、コーディネートしながら、どうシステム化していくかという点が、非常に難しいと考えています。
- ・それともう1つはファームステイで対価を得ることことも大切だと思っております。
- ・受入農業者は経営方針も含めまして、10人いたら、まさに10のタイプがあるので、上手く組み合わせて連携して実施できたらと考えています。

(美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・大変参考になりました。一番理想なのは、潜在的に受入れに協力したいと思っている思いを持った農家が一定数いて、事務局を担う農協か、役所などの事業の趣旨に賛同する人がいて、推進の声が上がったときに、火がついて、一緒に仲間に加わってもらってということが理想だと思っています。
- ・なかなかそうはなっていないだろうと、当方の地域では感じているので、今日伺ったことを参考にし、また、仲間づくりをしていきたいと思えます。

(農村設計課)

- ・アンケートの中で、情報交換会において、お聞きになりたい情報がありますかという2点目の質問に美幌町農村ツーリズム推進協議会からの質問で、旅行会社の方からコンペがあって、非常に落胆されたというお話がありましたが、質問に対しての補足はありますか。

(美幌町農村ツーリズム推進協議会)

- ・どういう実態で、発注行為が行われるかというのをわかりましたらお聞きしたい。

(農村設計課)

- ・ご質問が、コンペ形式が多いのか、発注でもう確定前提の発注が多いのか、どちらだという質

問がありましたので、どなたか、教えていただいてもよろしいですか。

(千歳観光連盟)

- ・肌感覚で毎回カウントしているわけではないので、多分、各地域の皆さんはそれぞれ問い合わせがある場合に、旅行会社から、ファームステイなりファームビジットに来たいのですが、空き状況どうですかと聞かれ、今空いていますと回答した場合は、相手から、料金教えてもらえますかと再質問され、それは確定ですか、見積もりですかと聞くと、いやこれ見積もりです というやりとりがよくあります。
- ・過去には旅行会社の他社さんからも同じ日程で料金を教えてくださいっていう場合もありますし、一方、学校では、この千歳エリアのファームステイ、すごくよかったなので、学校から来年もお願いしたいということで、それはもう旅行会社からの随契なのか、また私立、公立によっても考え方があると思うので、プロポしないで決めてしまうなど、様々なパターンがあると思います。

(農村設計課)

- ・システムとしてのコンペもあるでしょうし、また、千歳観光連盟からの話がありました、見積もりをいろいろ数社、聞いてお金で決めているなど、様々なパターンがあり、どう決めたかわからないのがあるかと思います。

(千歳観光連盟)

- ・旅行会社は学校に見積もりなり、教育旅行の中身で提案し、あとは学校が金額で選んでいるのか、内容で選んでいるかっていうことは、私達にはわかりにくい部分もあります。

(農村設計課)

- ・パターンの中には学校の希望で、もうほぼ確定だという確認の中で、見積もりを聞いている場合もあれば、そうでない場合や、どこかと比較している場合もあり、そこは旅行会社次第というのものもあるかと思います。食の絆を育む会は、どうお考えか教えていただきたい。

(食の絆を育む会)

- ・千歳観光連盟が話したとおり、ケースバイケースでこれというのはないかと思います。
- ・旅行会社もやはり絞り切れない、こっちが駄目だったら、こちらを選択するというように、二股三股をかけていかないと、成り立たないのではと考えられます。

(農村設計課)

- ・ありがとうございます。初期の段階でなかなか、うまく採用されなく、何かしらの対策や経験等をお持ちの方がいれば、ご紹介いただけますか。

(マルベリー)

- ・コンペで負けて、一喜一憂しないで、取れたらラッキーぐらいの気持ちを持つことが大切です。
- ・プログラムの内容、料金など、いろんな要因があると思うので、本当に子供たちにとって実りある教育旅行となるように、商品力に傾注する方が望ましいと思います。
- ・何度も何度もチャレンジすることが大切です。

(農村設計課)

- ・ありがとうございます。事前アンケートに記載がありましたご質問等についてはこの2点ですが、いかがでしょうか。皆さんにこんな話をお伺いしたいことはどなたかいますか。

(マルベリー)

- ・コロナ禍以降、受入農家の減少、どのエリアも教育旅行受入キャパシティの減少が大きくなっています。
- ・千歳観光連盟と10年前に、地域連携したことあるのですが、その当時は、最初のきっかけは我々主導ではなくて、教育旅行エージェント主導で、マルベリーのキャパシティがこうだから、千歳観光連盟と組み合わせて受入れをしたいと提案がありました。
- ・その時ネックだったのが、料金形態の違いやシステムの違いであり、その当時は、学校側に了承を取り付けて料金は別々のまま、エージェント様手動の広域連携の受入れを実現しました。
- ・他のエリアでは各自治体の機関との連携で受入を行っている一方、弊社はほとんどが民間のみの連携で受入れをすなど、受入れの方法がそれぞれ異なり、個性の違いはむしろ魅力となるのではないのでしょうか。
- ・アグリテックや美幌町農村ツーリズム推進協議会は、公的機関と連携して実施していますが、弊社は当初、例えば、スイカの選果場の見学など公的関係機関などと連携をお願いし受けてくださったのですが、やはり本業が忙しいので年1回の受入対応しかできないと言われるなど、公的な機関との連携が難しいと感じている現状にあります。

(農村設計課)

- ・公的な機関との連携の話が今ご紹介ありましたが、食の絆を育む会ではいかがでしょうか。これについてのご意見、よろしく願いいたします。

(食の絆を育む会)

- ・万が一コロナになってしまったらどうするかというところがあるので、なかなか役場から声かけするということが非常にしづらくなっているといことは肌感覚で感じています。
- ・今までだったら例えば、急遽、受入農家が足りないのも、やっぱり頼むというようなことは、繋がりの中で役場からも声かけしていましたが、コロナ禍になってから、そういうことがしづらくなってしまっているのではないかと感じています。
- ・何を役場をお願いするのか、何を民間が担うべきなのかということも、もう少し考えていく時期なのではないかと十勝では思っているところであります。

(農村設計課)

- ・津別町グリーン・ツーリズム協議会では、でコロナ以降の公的機関の後押しについて、ご意見等ございませんか。

(津別町グリーン・ツーリズム協議会)

- ・少なくとも、私個人的にはもうコロナが明けたものだと思っていますので、後ろめたい気持ちもないですし、交流人口の活性化を図れる受入は前向きに進めていきたいと考えております。
- ・ただ、役場の担当者の考えによるものだと思うので、おそらく、中には声をかけづらい方もいるかと思いますが、私個人的には感染の防止などいろいろなものは今もなお続けて、受入を推進していかなければいけないと思っています。

(農村設計課)

- ・担当者によるという言葉がありました。南知床標津町観光協会では公的機関の後押しについて、ご意見等ございませんか。

(南知床標津町観光協会)

- ・弊社は、もともと事務局が役場にあったエコツーリズム協議会、地域協議会、観光協会の3つの組織が、1つに統合して南知床標津町観光協会となりました。
- ・もともとの3つの事務局組織は役場の方で担っていましたが、担当者が人事異動することによって繋がっていたネットワークや人脈が、人についているものなので、また初めからから構築するということもありました。そのようなこともあり、1つに統合された南知床標津町観光協会の事務局は現在、観光協会が担当しております。
- ・現在、役場としては北方領土の関係の補助金の窓口しているほか、誘致のために学校訪問や、東京大阪で行われる教育旅行セミナーに参加するなど、観光協会と町が連携して実施している状況です。

(農村設計課)

- ・ありがとうございます。時間が参りましたので、今年度の意見交換につきましては、ここまですべて終了させていただきます。